歌劇

平成19年6月1日発行　通巻981号（毎月1回1日発行）
昭和21年7月1日 第3種郵便物認可

6

2007 TAKARAZUKA REVUE

大和悠河
YŪGA YAMATO

新生宙組・大和悠河特集

阪急コミュニケーションズ

歌劇 Takarazuka Revue 6 2007

40th Anniversary
おかげさまで創立40周年

VA VJAグループ
Founding Visa Member

春野寿美礼／宝塚歌劇団 花組

三井住友VISAカードは、
宝塚歌劇を応援しています。

三井住友VISAカード会員様限定の貸切公演では、素敵な特典がいっぱい。
三井住友VISAカードは会員様限定の貸切公演を宝塚大劇場、東京宝塚劇場で年間約30回実施※しております。貸切公演の際には、次回貸切公演最前列チケット、サイン色紙などが当たる抽選会も行っております。（※17年度実績31回）

宝塚歌劇の最新トピックスを、「VISA誌」やインターネットでご覧いただけます。
VISA誌連載の「オール・ザット・タカラヅカ」では、ファン必見のスター特集記事が満載。
会員専用のインターネットサービス「Vpass（ブイパス）」では、春野寿美礼からのメッセージ、貸切公演情報などが掲載されている「宝塚歌劇ニュース」を毎月更新しています。

Vpass

宝塚歌劇のチケットは、「三井住友VISAカード」で。
三井住友VISAカードは、貸切以外の公演チケットをお求めの際にも、お使いいただけます。

ご入会に関するお問い合わせは
0120-816437（ハイローヨミンナ）
平日9:00～19:00
土・日・祝9:00～17:00
年中無休（但し、12/30～1/3を除く）
http://816437.jp（ハイローヨミンナ）

三井住友VISAカード

雑誌02399-6
4910023990676
00571

●特別企画 第21回●

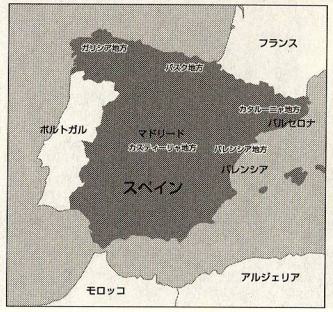
ワールドワイド オブ タカラヅカ

Worldwide of TAKARAZUKA

このコーナーでは、宝塚歌劇で上演される作品のモデルとなっている国々や時代背景、歴史的人物などにスポットをあて、専門家へのインタビューや、寄稿などを取り混ぜ、様々な切り口で紹介します。

『バレンシアの熱い花』の〜舞台、スペインを訪ねる〜

●今回は宙組公演『バレンシアの熱い花』の舞台となっている、19世紀初頭のスペインの歴史とバレンシアとの関わり、バレンシアに継承されている火祭りや食文化について、スペインの歴史書を多数、監修・執筆されている、東京外国語大学の立石博高教授にお話を伺いました。また、初演から31年ぶりの上演への思いを綴った、橋本雅夫氏（著述家、初演時の制作担当）の寄稿文も紹介します。



○スペインの概要や主な歴史についてお聞かせ下さい。

スペインは、ヨーロッパの南西部にあたり、イベリア半島の大部分を占める国です。北部はピレネー山脈を隔てフランス、西部はポルトガルと接し、南部はジブラルタル海峡を挟んでアフリカ大陸と向かい合っています。古来より、地中海と大西洋に面した地の利を活かし、ヨーロッパ諸国や北アフリカとの交易も盛んに行われてきました。

15世紀から17世紀にかけて、ヨーロッパの国々が世界中に進出した大航海時代、スペインは探検家クリストファー・コロンブスの航海を支援しました。コロンブスのアメリカ海域への到達後、中南米のアステカ王国やインカ帝国を滅ぼし、南アメリカ大陸の大部分と中央アメリカ、フロリダ半島、キューバ、さらにフィリピンを征服・植民。これらの植民地によってスペインは、「雨が降り注ぐように金銀がもたらされた」と言われるほど、莫大な富を築き上げました。まさにこの時代がスペインの黄金期となりました。

数多くの植民地を有したことから、その時代の遺産として、スペイン語が公用語となっている国も多く、約3億3000万人が使用していると言われています。一般的にスペイン語とは、スペイン中部のカスティーリャ地方に伝わる、カスティーリャ語のことを指します。この他、北部のバスク地方ではバスク語、北西部のガリシア地方ではガリシア語、東部地中海沿岸部のカタルーニャ地方からバレンシア地方、そしてマジョルカ島などでは、カタルーニャ語が使われています。

PROFILE
立石博高
たていしひろたか

1951年生まれ。東京外国語大学外国語学部教授。スペインの歴史、文化に関する著書・訳書を多数出版。主要著書・訳書／「もうひとつのスペイン史」（共著、同朋舎出版）、「フランス革命とヨーロッパ近代」（共編著、同文舘）、「スペインの歴史」（共編著、昭和堂）、「大航海の時代」（共編訳書、同文舘）、「スペイン・ポルトガル史」（編著、山川出版社）。近著に、「世界の食文化14スペイン」（農文協）がある。
http://www7a.biglobe.ne.jp/~hirotate/

○19世紀初頭のスペインの歴史と、バレンシアとの関わりについてお聞かせ下さい。

1807年、ヨーロッパを席巻していたナポレオン軍がスペインに侵入し、1808年、フランスの支配下に置きました。これに対し、民衆による反フランス蜂起が起こり、壮絶なまでの独立戦争へと発展していきました。その後、ナポレオンがモスクワ遠征に失敗し、スペインからフランス軍が撤退したことで1814年、王位は再び、フェルナンド七世に戻りました。

しかし、フェルナンドは、1812年に制定されたカディス憲法（国民主権を謳い、自由主義思想の反映された憲法）の破棄を宣言し、再び絶対王制を復活させようとしたため、憲法の遵守を求める自由主義派が各地でクーデターを起こします。1820年、自由主義派のリエゴ将軍は、クーデターに成功し、自由主義政権を樹立しました。自由主義派は、旧体制の仕組みを打ち砕こうと、憲法の再制定、教会財産の売却、封建的領主制度の廃止などを掲げて、絶対王制支持者と対立しました。自由主義派は、都市に住む市民や軍人が多く、絶対王制支持派は農村を拠点にしていました。

農民達は穀物類を年貢として納め、刈り残ったもみなどを集めて暮らしていましたが、自由主義政権に代わるや、貨幣を持たない農民達にまで租税金納が課せられ、さらに共同体的慣行を廃止されて、苦しい生活に追い込まれてしまいます。バレンシア地方の農業地域も例外ではありませんでした。1820年から30年代にかけてスペイン北部やバレンシア地方では、自由主義を推進しようとする者達と、旧体制を復活させようとする者達が交錯し、たびたび反乱が起こりました。この時代は、市民や農民までもが相争う、混乱を極めた時代となりました。

▲首都マドリードのマヨール広場

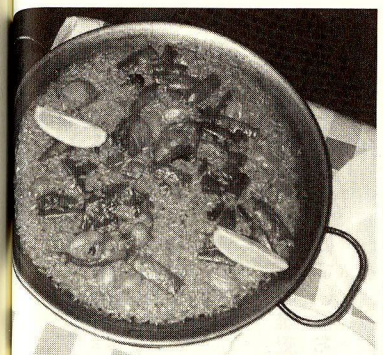
○地中海沿岸の港町、バレンシアについてお聞かせ下さい。

バレンシアは、首都マドリード、バルセロナに継ぐ、第三の都市です。スペインの東部、地中海に面して、485kmに及ぶ海岸線は、「オレンジの花の海岸」と呼ばれています。温暖な地中海性気候に恵まれ、首都マドリードから一番近いビーチリゾートとして、賑わいを見せています。肥沃な平野では、米を主とした農業が盛んに行われてい

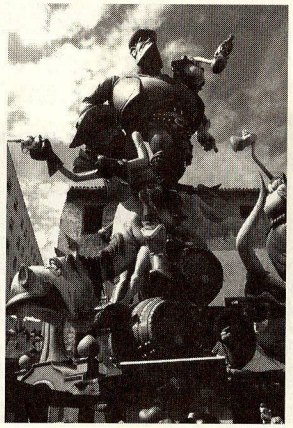
ます。柑橘類の栽培も行われており、バレンシアオレンジの産地としても有名です。

また、古くからスペイン有数の地中海交易の港として栄えました。現在も、バレンシアの港は、スペイン各地の港、地中海沿岸の主要港、バレアレス諸島やカナリア諸島などとの航路を持ち、バレンシア特産の絹織物や陶器タイルなどの工芸品、農産物が輸出されています。

バレンシアの繁栄時代を物語る史跡として、15世紀末に絹の商品取引所だった、ラ・ロンハがあります。イスラムの王宮跡に建てられた、フランボワイヤン・ゴシック様式の優美な建物は、世界遺産にも指定されています。



▲バレンシアの伝統的なパエーリャ



▲バレンシアの火祭りのために作られた張り子人形

○バレンシアの食文化や有名な火祭りについてお聞かせ下さい。

スペイン有数の米所であるバレンシアは、パエーリャ発祥の地として有名です。一般的に、シーフードを使ったパエーリャをイメージされる方が多いと思いますが、そのようなパエーリャは、保存技術の発達した近代のもので、もともとバレンシアでは、豆類、鶏肉、兎肉、カタツムリなどを入れて炊き込んだものが主流でした。毎年9月の収穫時期になると、パエーリャ・コンテストや1000人分のパエーリャを作るイベントが行われています。

セビーリャの春祭り、パンプローナのサン・フェルミン祭りとともに、スペインの三大祭りと呼ばれている、バレンシアの火祭りは、春を告げる祭りとして人々に親しまれています。毎年3月12日に始まり、19日のサン・ホセの日にクライマックスを迎え、この日を境に闘牛シーズンが始まります。

火祭りは、中世に大工職人達が、聖母マリアの夫であり、キリストの養父であった聖ヨゼフの祝日の3月19日夕刻に鉋くずを集めて燃やしたことが始まりと言われ、時代を経て、政治家や有名人などの時事的な話題を諷刺する張り子人形を作って燃やすようになりました。火祭りの期間中は、市内の広場にファリャと呼ばれる舞台が作られ、最大18mもの巨大な張り子人形が300以上も飾られるという、壮大な祭りです。19日の夕刻にすべて燃やされてしまうのですが、人気投票などで選ばれた物は、バレンシアの火祭り博物館に保管されます。博物館には、1930年代以降の張り子人形が展示されており、スペインの歴史的な流れを垣間見ることができます。

写真提供／立石博高

31年ぶり　うれしい再演
迷プロデューサーの回想

初演時の制作担当　橋本雅夫

あの名作『バレンシアの熱い花』がこのたび蘇る。まことにうれしい。

昭和五十一年（1976年）初演。そのプロデューサーが「あの名作」と高言するのもおこがましいが、あの作品の成功は、まず第一に男役・娘役・ベテランの役柄を綿密に書き分けられる柴田侑宏先生の脚本にあった。さらには、音楽の寺田瀧雄先生はじめスタッフのご努力も大きかった。多くのスタッフが故人になられた今、何よりも柴田先生のご健在がうれしい。

昭和五十一年と言えば、『ベルサイユのばら』の大ブームの真っ最中。そこへ〝ベルばら〟をしのぐ作品を出せと、苛酷な?命令を受けたのがこの迷プロデューサーだった。この年、柴田先生とコンビを組み、三つの組で三つのドラマを制作させていただいた。

まずは花組で万葉ロマン『あかねさす紫の花』、次が雪組で新選組の沖田総司の青春を描いた『星影の人』。そして今度は一転して月組でこの洋物ドラマ『バレンシアの熱い花』。いずれも大好評を受け、今もその思い出はオールドファンの皆様の胸に美しく宿っていることであろう。

「熱い花」は複数ですヨ

ところで、最初に柴田先生から出された作品の題名は『バレンシアの熱い花々』、それを歌劇団では『バレンシアの熱い花』と簡潔にした。柴田先生には「日本語では花の複数はありません」とこの迷プロデューサーは申し上げたが、先生は主題歌の中に見事に花の複数を詠み込まれた。

「ああ、バレンシアの熱い花々」

寺田先生作曲のこの歌が流れるたびに、熱い花々は大きく育って行った。

その中でもとりわけ大きく開いた花々。フェルナンド榛名由梨、ロドリーゴ瀬戸内美八、ラモン順みつき。

このときの月組の男役陣は、榛名が花組から移ってきて新トップとなり、主演経験のある瀬戸内に、芸達者な順も加わる豪華メンバーになった。

さらに好評のため、予定していなかった東京公演が急に決まって昭和五十四年に東京宝塚劇場でも上演。その時には、星組トップに移った瀬戸内に代わってロドリーゴに大地真央という新しい花も加わったのである。

ちなみに、英語で花の複数はFLOWERSじゃなかったか?と、この迷プロデューサーは英文プログラムを取り出してみた。当時、宝塚作品の英文タイトルは、アメリカのハーバード大学出身の老紳士にお願いしていた。この方は私から演目の概要を聞いてタイトルを考えてくださったものだ。

A FIERCE STRUGGLE IN VALENCIA

これが『バレンシアの熱い花』の英文タイトルだった。

私なら「HOT FLOWERS」としたかも知れぬ。それを「FIERCE STRUGGLE」とはあの名作にふさわしい、まことに心憎いタイトルであった。